

農林水産商工常任委員会資料

(令和6年5月21日)

項 目	ページ
■ 株式会社セブン-イレブン・ジャパンとの包括連携協定の締結について 【商工政策課】 ……	2
■ 環大生×企業によるSDGs共創プロジェクトのキックオフについて 【商工政策課】 ……	3
■ 県外企業の立地決定について 【立地戦略課】 ……	5
■ 「とっとりクリエイターズ・ビレッジ」プロジェクトの キックオフイベントについて 【産業未来創造課】 ……	6
■ 環日本海定期貨客船航路の状況について 【通商物流課】 ……	8
■ 県立ハローワークにおける利用実績状況等について 【鳥取県立ハローワーク】 ……	9

商 工 労 働 部

株式会社セブン-イレブン・ジャパンとの包括連携協定の締結について

令和6年5月21日
商工政策課

鳥取県と株式会社セブン-イレブン・ジャパンは、緊密な相互連携と協力により地域の様々な課題に迅速かつ適切に対応し、県民サービスの向上及び地域活性化を図ることを目的として、包括連携に関する協定を締結しましたので、その概要を報告します。

1 協定締結式の概要

- (1) 日時 令和6年4月24日(水) 午後1時30分から午後2時まで
- (2) 場所 県庁議会棟3階 特別会議室
- (3) 出席者 株式会社セブン-イレブン・ジャパン
オペレーション本部 中国地区 ゾーンマネジャー 綿貫 亮(わたぬき りょう)氏
商品本部 中国・四国地区 シニアマーチャンダイザー 日塔 寛(にっとう ひろし)氏
鳥取県 副知事 亀井 一賀
- (4) 内容 協定概要説明、協定書披露、協定締結記念「食パラダイス鳥取県フェア」の販売商品の発表及び副知事試食

2 協定の概要

- (1) 県政・観光・交流等に係る情報発信
- (2) 県産品の販売促進、県産品を利用したオリジナル商品の企画・販売
- (3) 自然環境の保全・継承
- (4) 子育て・人材育成
- (5) 共生社会の推進
- (6) 健康づくりの推進
- (7) 地域の安心安全なまちづくり
- (8) その他持続可能な地域づくり

【協定に基づく主な取組】

○「食パラダイス鳥取県」のブランド化に向けた鳥取県フェアの開催

- ・県産品(らっきょう、長芋(ねばりっこ)等)を使用したオリジナル商品(おにぎりやカップデリなど計5品)を開発し、「食パラダイス鳥取県フェア」(4/25～5/8)を開催して中国地方のセブン-イレブン約1,000店舗で販売。

○鳥取県の主要行事等とタイアップしたPR事業の共同実施

- ・鳥取県フェアの売上の一部を活用し、県の主要イベント等とタイアップした事業を実施(令和6年度は、「ねんりんピック はばたけ鳥取2024」とのタイアップ事業を実施予定)。

○災害時の連携支援

- ・災害時の「応急生活物資の供給」と「帰宅困難者支援」の個別協定をそれぞれ締結し、地域の安心安全を支える災害時の支援体制を強化。

○環境対策・リサイクルの啓発・推進(SDGsの推進)

- ・ペットボトル回収機をセブン-イレブンの店舗に設置するペットボトルリサイクル事業を開始(令和6年4月17日、鳥取市内9店舗に新設)し、サーキュラーエコノミー(循環経済)の取組を推進。
- ・鳥取市内の小学校2校で、食品ロス削減のセブン-イレブンの活動を紹介する特別授業を実施(令和6年2月)し、児童は食品ロス削減につながる『てまえどり』の広報物を作製(市内店舗に掲示)。



3 その他

企業との包括連携協定の締結は本件が28社目となり、コンビニエンスストアとは4社目。
(ローソン(H18締結)、ファミリーマート(H24締結)、ポプラ(H26締結))

【参考】株式会社セブン-イレブン・ジャパンの概要

【会社名】株式会社セブン-イレブン・ジャパン	【代表者】代表取締役社長 永松 文彦
【所在地】東京都千代田区二番町8番地8	
【売上高】5兆3,452億円(令和6年2月期)	
【店舗数】国内店舗数 21,551(うち中国地方 1,351)、鳥取県内に52店舗(令和6年4月末)	
【その他】平成27年10月30日 セブン-イレブン・ジャパンの鳥取県初出店	

環大生×企業によるSDGs共創プロジェクトのキックオフについて

令和6年5月21日
商工政策課

公立鳥取環境大学の学生が、県内企業の環境面の課題解決に向けて取り組む『SDGs共創プロジェクト』を、公立鳥取環境大学・鳥取商工会議所・鳥取県の産学官連携で実施することとし、この度、課題の内容や取組方針を説明・共有するキックオフを行いましたので、その概要を報告します。

1 環大生×企業によるSDGs共創プロジェクトの概要

プロジェクトは、県内企業の事業活動で生じる環境面の課題について、企業からの依頼を受けて、環境大学の学生が、教員の指導のもと提案者と一緒に解決に向けて取り組むもので、SDGsを推進する県内企業に課題を募り、この度、6つのテーマで取り組んでいくことを決定しました。

[プロジェクトのテーマ及び提案企業] 6テーマ

- ①『建設業におけるCO2排出量算出モデルの構築』（提案：美保テクノス株式会社（米子市））
- ②『AIを活用した工場内の電力消費量の可視化』（提案：大同端子製造株式会社（鳥取市））
- ③『衛星データとドローンによる海岸漂着ごみ対策』（提案：（一社）日本ドローン海岸漂着ごみ回収事業推進協会）
- ④『メッキ排水の再生利用技術』（提案：株式会社アサヒメッキ（鳥取市））
- ⑤『100%天然由来 刈草堆肥のブランド化・販路開拓』（提案：株式会社エコ・ファーム鳥取（鳥取市））
- ⑥『生分解性素材による椎茸種菌の保護蓋の開発』（提案：菌興椎茸協同組合（鳥取市））

[プロジェクトのねらい]

- ・企業の環境課題の解決を、公立鳥取環境大学（環境学部・経営学部）の専門性を活用する「共創」で実現
- ・学生が、リアルな企業の課題・テーマに対して実践的な研究活動を行っていくことで、成長を促進
- ・企業課題に、SDGs世代の学生の感性でフィードバックを行うとともに、学生と県内企業との出会いを創出

[これまでの経過]

環境大学と鳥取商工会議所工業部会が、令和3年度から県東部製造業を対象とした連携事業として調査・研究等を実施してきたが、この度、県が参画し、取組エリア・分野等を拡大して産学官連携事業でリニューアルしたものを。

2 プロジェクトのキックオフ

プロジェクト開始に先立ち、共創の取組を盛り上げ、研究の成果も共有していくための発表会を開催し、企業からは課題設定の背景や大学への期待等を示されるとともに、学生からは設定された課題に対して進めていく研究の方向性などについての説明が行われました。

日時等：令和6年5月8日（水）午後3時30分から午後5時まで
とりぎん文化会館 第2会議室

主催者：公立鳥取環境大学 小林 朋道 理事長兼学長
鳥取商工会議所 木下 貴啓 工業部会長
鳥取県 池田 一彦 商工労働部長

概要：一般聴講者、企業・大学発表関係者など81人が参加。
企業・学生の発表に先立ち、環境大学・小林学長からは、学生の成長につながる企業現場でのフィールドワークに意義があること、鳥取商工会議所・木下工業部会長からは、学生の発想や新たなイノベーションに向けた期待が寄せられた。



3 プロジェクトの今後の予定

環境大学の学生と課題を提案した企業が連携して、調査や評価・検証等を今年度1年かけて進め、今年度末までにその成果をまとめ、成果報告会を実施する予定としています。

4 参考

県では、県内企業のSDGsの取組を推進しており、今年度は、環境大学の講義の中で、「とっとりSDGs企業認証」の取得企業による活動事例の発表や工場見学の機会を設ける予定としており、企業のSDGs活動の浸透と、県内企業と学生との交流機会の創出を進めていきます。

(参考) 令和6年度SDGs共創プロジェクト 対象6テーマの概要

脱炭素化	<p>『建設業におけるCO2排出量算出モデルの構築』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○提案企業: 美保テクノス株式会社(米子市) ○担当学生: 環境学部4年 金子 諒 (担当教員/環境学部 門木 秀幸 准教授) ○企業課題: 気候変動対策を考慮した経営を実現するため、事務所や様々な工事現場におけるCO2排出量を可視化したいが、建設業界や社内にノウハウが不足。算定ツールを開発して横展開したい。 ○研究方針: 建設工事における資材調達、設計、施工、改修、解体などの工事現場における燃料消費量や電力使用量などからCO2排出量を算定するモデル的な手法・ツールの開発や、CO2の削減方法を検討していく。
	<p>『AIを活用した工場内の電力消費量の可視化』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○提案企業: 大同端子製造株式会社(鳥取市) ○担当学生: 環境学部3年 小林 碧志 (担当教員/人間形成教育センター 堀 磨伊也 准教授) ○企業課題: 提案企業の工場は、配線が複雑で、工場内のどこでどのくらい電力を消費しているかの可視化ができていない。2026年までに電力使用量25%削減に向けて、マイクロ視点でも現状を把握したい。 ○研究方針: 温度・湿度・CO2・騒音計を搭載した小型のマイコンを建物ごとに設置し、センサーデータを用いて電力需要の予測を行うとともに、予測根拠の可視化に取り組み、節電対策につなげていく。
環境負荷低減	<p>『衛星データとドローンによる海岸漂着ごみ対策』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○提案企業: (一社)日本ドローン海岸漂着ごみ回収事業推進協会 (協議会構成企業: 株式会社 skyer 鳥取事業所(鳥取市)、北溟産業有限会社(倉吉市)) ○担当学生: 環境経営研究科環境学専攻修士課程1年 陳 裕后 (担当教員/環境学部 佐川 龍之 准教授) ○企業課題: 提案団体は、海岸漂着ごみの現地確認、自治体へ情報提供後、回収業務を受注し、ドローンを活用して回収。ごみの漂着状況をリアルタイムで把握して、効率的な回収につなげていきたい。 ○研究方針: 衛星データ等を活用して、ごみの漂着場所を特定する可能性を検証していく。
	<p>『メッキ排水の再生利用技術』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○提案企業: 株式会社アサヒメッキ(鳥取市) ○担当学生: 環境学部4年 角 真珠 (担当教員/環境学部 門木 秀幸 准教授) ○企業課題: メッキ排水の再生利用に向けて、システム導入等の取り組みを行ってきたが、排水に油分が含まれて上手く稼働できていない状況であるため、排水の処理方法について検討していきたい。 ○研究方針: 排水の再利用の課題となっている油分を、フェントン酸化法により酸化分解する仕組みを提案し、コストを考慮した最適な処理条件を確立するための研究を行っていく。
資源循環	<p>『100%天然由来 刈草堆肥のブランド化・販路開拓』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○提案企業: 株式会社エコ・ファーム鳥取(鳥取市) ○担当学生: 公立鳥取環境大学 学生EMS委員会 5名 (担当教員/経営学部 山口 和宏 准教授) ○企業課題: 一般廃棄物として受け入れた刈草を原料として、堆肥を製造販売しているが、環境に配慮した刈草の処分モデルを全国に発信していくこととして、その商品の展開について連携して検討したい。 ○研究方針: 土の脱臭効果から着想した消臭剤の開発、ヒートアイランド現象を抑えるための屋上緑化への活用などの複数案について、企業との協議を行いながら取組を進めていく。
	<p>『生分解性素材による椎茸種菌の保護蓋の開発』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○提案企業: 菌興椎茸協同組合(鳥取市) ○担当学生: 環境経営研究科環境学専攻修士課程2年 銅山 裕之、環境学部4年 葛西 梨里子 (担当教員/環境学部 金 相烈 教授、門木 秀幸 准教授) ○企業課題: 原木椎茸栽培で使用される発泡スチロール製の種菌のフタが、ゴミとして残ってしまっている。 ○研究方針: 植物由来のバイオプラスチックや、天然ゴムなどの生分解性の材料を用いた保護蓋を開発して、代替の可能性を検証していく。

県外企業の立地決定について

令和6年5月21日
立地戦略課

各種コイルやモーターを製造する自動巻線システム等の自動機設備を設計・開発するNITTOKU(ニットク)株式会社(本社:埼玉県さいたま市)が、鳥取市に鳥取テクニカルセンター(設計事務所)を設置しましたので報告いたします。

1. 企業概要

- (1) 企業名 NITTOKU株式会社(東証スタンダード市場上場)
- (2) 所在地 埼玉県さいたま市大宮区東町2-292-1
- (3) 代表者 代表取締役社長 笹澤 純人
- (4) 資本金 約6,885百万円
- (5) 事業概要 自動巻線システムをはじめとした各種自動機設備の設計開発や製造等
- (6) 従業員 約470人
- (7) 売上高 約22,500百万円
- (8) 事業所 [国内] 福島事業所、長崎事業所、四国テクニカルセンター(愛媛県)等
[海外] 中国、欧州、タイ等

2. 進出の背景等

- ・電気自動車やスマートフォンなど先端分野に多数使用されているコイルやモーターの世界的な需要増加が見込まれている中、コイルやモーターを製造する自動巻線システムの更なる需要拡大が見込まれることから、自動巻線システムのグローバルニッチトップ企業である同社は、国内で新たな設計事務所の立地場所を検討していたところ、県・鳥取市による誘致活動等により鳥取市に立地することとなったものです。

※自動巻線システムにおける同社世界シェア約40%(NITTOKU独自調査)

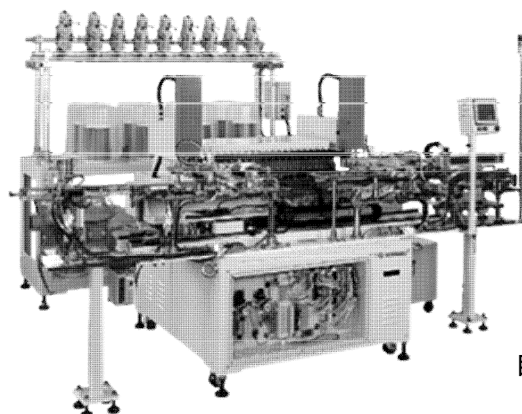
- ・将来的には、県内企業と連携することにより、設計業務だけでなく自動機設備の製造まで鳥取県内で一貫したモノづくり体制を構築する事も構想されています。

3. 鳥取テクニカルセンターの概要

- (1) 所在地 鳥取県鳥取市今町2丁目251番地 日本生命鳥取駅前ビル4階
- (2) 開所日 令和6年5月1日
- (3) 雇用計画 12名(5年計画)
- (4) 事業内容 主に福島事業所や長崎事業所で製造する自動機設備の設計業務

4. 県の支援見込み

上記の取組に対して、先端的デジタル活用企業立地促進事業補助金で事務所賃借料等への補助を予定(補助率:1/2、補助上限額:1,000万円/年×5年)



自動巻線システムの例

「とっとりクリエイターズ・ビレッジ」プロジェクトのキックオフイベントについて

令和6年5月21日
産業未来創造課

鳥取県と(株)講談社が連携してデジタルコンテンツクリエイターを育成する「とっとりクリエイターズ・ビレッジ」プロジェクトは、選考されたクリエイター5名が鳥取県内に移住し、本年4月から境港市を活動拠点として創作活動をスタートしたことから、プロジェクトのキックオフイベントを以下のとおり開催しました。

1 「とっとりクリエイターズ・ビレッジ」プロジェクトの概要

(1) 事業目的

デジタルコンテンツ分野でさらなる飛躍を目指す中核人材を全国から募集して県内活動拠点を提供し、クリエイター育成の実績を有する(株)講談社と連携して人材育成を図りつつ、デジタルコンテンツビジネス創出の拠点化を推進する。

(2) 選考過程 ※選考は、専門的知見を有する講談社において実施

・募集期間：令和5年12月6日～令和6年1月15日、応募者：166名 ⇒ 最終合格者：5名

(3) 活動期間 令和6年4月～令和8年3月（2年間）

(4) 活動拠点 シェアオフィス HANARE、サインインコワーキングオフィス（いずれも境港市上道町）

2 キックオフイベントの概要

(1) 日時 令和6年5月9日(木) 午後3時～3時30分

(2) 場所 境港市民交流センター「みなとテラス」(境港市上道町3000)

(3) 出席者

(プロジェクト参加クリエイター 5名)

※当日のイベント参加方法は、創作作品とクリエイター本人とは切り離して評価いただきたいという思いなどから、クリエイターは会場別室から音声で参加

HAZECODE (ヘイズコード) 【創作分野】 ゲーム

・ホラーコメディアドベンチャーゲーム「失踪 - タケシ、お前の言う通りだった。あの廃村はヤバすぎる。」を本年1月にリリース

※有名ユーチューバーのHIKAKINがYouTubeで実況配信を行い、動画は140万回以上の再生を記録

OLDUCT (オールダクト) 【創作分野】 音楽

・ゲーム音楽の制作のほか、音声合成ソフトによりオリジナル楽曲を投稿するボーカロイドプロデューサー

もちよ 【創作分野】 動画/CG

・アニメーション編集やYouTube編集が得意

※境港市での生活等を動画にしたSNSを情報発信

秋鹿えいと (あいかえいと) 【創作分野】 マンガ

・既に、「黒猫のクロ〜クロと僕のなにげない日常〜」を電子出版

※境港市での生活等をマンガにしたSNSを情報発信

なす 【創作分野】 マンガ

・マンガを描き始めた経験は浅いものの、高い表現力でマンガ雑誌への連載に向けて創作活動中

(来賓) 米子ガイナックス(株) 赤井代表取締役、(有)クレイド平尾代表取締役、境港市 清水副市長、(株)アート建工 安食取締役総務部長

(主催者) (株)講談社 鈴木クリエイターズラボ部長
鳥取県 平井知事

(4) 開催内容

ア 知事あいさつ

イ プロジェクト説明 (県・講談社)

ウ クリエイター自己紹介(5名)

エ 応援メッセージ (米子ガイナックス(株) 赤井氏)

※キックオフイベントに引き続き、各クリエイターの選考ポイントや個々の強み等を紹介したり、創作活動拠点の案内を実施

<知事コメント>

・デジタルコンテンツの聖地をつくる“とっとり版トキワ荘”をスタート

・是非、ここから大きく育ってもらい日本や世界で勝負できるクリエイターが続いて出てくるように応援していきたい。

<赤井氏応援メッセージ>

・自分がクリエイター活動を始めた頃は、鳥取で活動する余地はなく、東京で活動する選択肢しかなかったが、時代は変わり、鳥取県を拠点にして創作活動できる環境になった。

・将来クリエイターの皆様が活躍され“この2年間のプロジェクトがあったから”“とあっていただけるよう期待



<(株) 講談社 鈴木部長>

- ・伸びしろがある方を選んだ。
- ・第二の水木しげる先生となるようなクリエイターが生まれ、境港が聖地となるといい

3 「とっとりクリエイターズビレッジ・プロジェクト」の今後の取組

(1) 定期的活動状況の発信

創作作品とクリエイター本人を切り離して評価することを基本としつつも、「デジタルクリエイター創出の聖地化」を目指して、クリエイターの活動状況の発信について、(株) 講談社と調整します。

(2) デジタルコンテンツ「出張編集部」

本プロジェクトを契機として、県内でクリエイターを目指す人材の育成を行います。

(3) コンテンツ関連セミナー

<クリエイター作品>



<活動拠点>



<シェアオフィス HANARE>



<サインインコワーキングオフィス>

環日本海定期貨客船航路の状況について

令和6年5月21日
通商物流課

トゥウォン商船(株) (韓国東海市) の李錫基 (イソッキ) 社長が来県され、知事面談の場においてイースタンドリーム号等の運航計画を発表されました。これを受けて、中海・宍道湖・大山圏域市長会、地元経済・観光関係者等が参加して、日韓「海の道」推進プロジェクトチーム拡大会議を開催し、今後のイースタンドリーム号の利用促進に向けて意見交換を実施しました。なお、5月26日(日)にイースタンドリーム号の試験運航を実施し、同号は8月3日から正式就航します。

1 李錫基 (イソッキ) トゥウォン商船(株)代表取締役との知事面談結果

- 日時：令和6年5月18日(土) 午前11時30分から正午まで (於：知事公邸)
- 内容〈李錫基代表取締役の発言概要〉
 - 境港は、韓国東海港とも近く、山陰地域は、観光資源に恵まれている。継続的な定期便の寄港地として最適であり、8月3日から正式就航させたい。
 - スポーツ交流や長期滞在等、ユニークな商品で観光需要を獲得していきたい。
 - イースタンビーナス号 (旧ぱしふいつくびいなす号) の運航に係る免許を韓国海洋水産部に申請中であり、境港及び鳥取港へ寄港させたい。
- 〈平井知事の発言概要〉
 - イースタンドリーム号が、境港に寄港いただけるのであれば惜しみなく協力したい。
 - イースタンビーナス号の本県への寄港についても、是非とも応援したい。

※イースタンビーナス号の概要

- 1998年就航、26,594総トン、乗客定員680人、乗組員180人、全長183m。
「ぱしふいつくびいなす」としてR6.1まで運航。展望台や茶室、ジャグジー、プール、スパ等の施設も充実。
- 境港へは、H14年7月初寄港後、計21回寄港。鳥取港へは、H17年10月初寄港後、計13回寄港。
- トゥウォン商船(株)が、韓国・海洋水産部に「釜山-境港航路」の複合海上旅客運送免許を申請(R6.3)。

2 日韓「海の道」推進プロジェクトチーム拡大会議の結果概要

- 日時：令和6年5月20日(月) 午前10時から10時40分まで (於：米子市内)
- 主な参加者：中海・宍道湖・大山圏域市長会 (上定昭仁会長〈松江市長〉)、伊達健太郎副会長 (境港市長)、米子商工会議所 (坂口平兵衛会頭)、環日本海経済活動促進協議会 (足立統一郎会長)、山陰インバウンド機構 (野浪健代表理事)、鳥取県ハイヤータクシー協会、鳥取県バス協会等
- 内容〈参加者からの主な意見〉
 - 境港がゲートウェイの役割を果たすことは大事であり、情報発信や観光商品の高付加価値によりニーズをうまく取り込んでいきたい。(上定松江市長)
 - 子ども達のサッカー交流など、スポーツ交流も進めていきたい。(伊達境港市長)
 - 中海圏域の8の字ルート整備に向けた経済効果増加にも良い影響がある。(坂口会頭)
 - C I Qの体制充実や柔軟な応援体制が必要である。(足立会長)
 - スポーツ交流、長期滞在及び貨物掘起しをはじめ、今までとは違った使い方等、8月の本就航に向けて準備を加速化していきたい。(平井知事)

3 イースタンドリーム号の試験運航の概要

- 日時：令和6年5月26日(日) 午前9時境港入港、27日(月) 午後6時出港
※イースタンドリーム号は、韓国側母港の江原特別自治道東海港と往復します。
- 韓国団来県メンバー：韓国江原特別自治道東海市 (ムンヨンジュン副市長他)、FAMツアー団、韓国江原道マスコミ団、トゥウォン商船(株)関係者 計30名程度
- 試験運航中の実施予定事業
 - ①記念セレモニー (5月26日(日) 午前9時～午前10時〈境夢みなとターミナル〉)
 - ②イースタンドリーム号の内覧会 (5月26日(日) 午後1時30分から午後3時)
 - ③韓国FAMツアーの実施 (5月26日(日)～29日(水))

4 イースタンドリーム号の正式就航スケジュール

- 日時：令和6年8月3日(土) 午前9時入港 (正式就航の初便)
- 運航ダイヤ：週1便運航。境港入港 (毎週土曜日午前9時)、境港出港 (毎週日曜日午後7時)

県立ハローワークにおける利用実績状況等について

令和6年5月21日
鳥取県立（鳥取・倉吉・米子・境港）ハローワーク

鳥取県では、地方版ハローワークである「鳥取県立ハローワーク」を県内4か所（鳥取、倉吉、米子、境港）及び県外2か所（東京、大阪）に設置し、県の産業施策、移住施策等と連携した求人・求職支援等を行っています。

令和5年度 of 取組状況等について、次のとおり報告します。

1 職業相談・紹介事業

就職決定者数は2,270人（前年度2,479人）で約8%減、相談件数は47,287件（前年度47,313件）で横ばい、新規求職者数は3,108人（前年度2,877人）で約8%増となった。

(1) 年度別推移

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
就職決定者数（人）	2,789	2,624	2,446	2,479	2,270
うち正規雇用（人）	946	838	865	802	800
相談件数（件）	57,151	53,612	47,470	47,313	47,287
新規求職者数（人）	3,639	3,429	3,162	2,877	3,108

(2) 地域別内訳 [上段：令和5年度、下段の（ ）：令和4年度]

項目	鳥取	倉吉	米子	境港	関西	東京	計
就職決定者数（人）	701 (748)	554 (551)	829 (1,001)	151 (141)	23 (30)	12 (8)	2,270 (2,479)
うち正規雇用（人）	238 (227)	196 (180)	320 (335)	27 (35)	9 (18)	10 (7)	800 (802)
相談件数（件）	15,933 (15,031)	7,451 (6,235)	18,451 (19,763)	3,904 (4,151)	547 (559)	1,001 (1,574)	47,287 (47,313)
新規求職者数（人）	981 (804)	689 (575)	1,114 (1,210)	222 (192)	63 (62)	39 (34)	3,108 (2,877)

2 都市部ビジネス人材の誘致事業（とっとり副業・兼業プロジェクト）

県内企業の経営課題の解決を支援するため、高い専門性や豊富な経験を有する都市部ビジネス人材を副業・兼業人材として県内に受け入れる「とっとり副業・兼業プロジェクト」を展開した。

取組	令和5年度実績
鳥取県で週1副社長（通年）	・民間大手の副業マッチングプラットフォームに鳥取県の特設サイトを開設し、通年で4期に分けて副業・兼業求人を募集した。 ⇒148社171件の求人を掲載し、3,615人が応募した。 ⇒「130社130人」の目標に対し183社250人のマッチングが決定した。（本特設サイト以外のレポート契約等を含む）
副業兼業サミット2023（R5.8.21・オンライン）	・都市部ビジネス人材を対象に、県内での副業・兼業をPRするセミナーをオンラインで開催した。 ⇒参加者は337人（事前申込535人）であった。
アイデアソン（R5.10.20・オンライン）	・（株）NTTデータとの連携により副業人材を求める県内企業2社をオンラインで訪問し、実際の経営課題に対する事業アイデアを即興で作り出してプレゼンしながら交流するワークショップを開催した。
オンライン座談会（R5.12.1・オンライン）	・ライオン（株）10名と県内企業2社がオンライン座談会を開催し、県内企業の経営課題の解決に向けたアイデアを創出した。
リスティングワークショップ	・都市部大企業のビジネス人材と県内企業が地域創生を実現する事業アイデアと情報発信スキルを体得するワークショップを開催した。

(R5. 9. 16～9. 17・パレットとっとり)	⇒東急グループ社員 14 名、鳥取商工会議所青年部 12 名
副業人材活用最前線セミナー(R5. 7. 8 とりぎん文化会館)	・県内企業の人手不足の改善と成長の実現のため、副業人材をはじめとする外部人材活用と社内人材育成の必要性についての理解を深めるセミナーを開催した。 ⇒参加者 340 人 (うちオンライン 220 人)
企業支援機関向けセミナー・講演会	・企業支援機関を対象に副業兼業の理解と企業紹介の協力を促進するためのセミナー・講演会を開催した。 ⇒対象機関 倉吉商工会議所、米子信用金庫、米子中央食品卸売団地 参加者 合計 183 人

3 キャリアデザインLab (ラボ) 設置事業

(1) 概要

設置目的	・令和5年7月18日設置 ・県内の人手不足は深刻な課題であり、様々な理由から求職活動に至っていない者(求職活動未済の潜在労働力)を掘り起こし、就業に向かうよう働きかけやキャリア形成支援を行う。
支援対象者	・専業主婦(夫)、就職氷河期世代、シニア層、ニート など
運営	・株式会社タスクールP l u s (外部委託) (本社:愛知県名古屋)
実施内容	・実務経験豊富なキャリアコンサルタントを配置 ・適性診断、適職診断、今後の方向性のコンサルティング ・(支援対象者の意向を踏まえた) リスキリング支援 [職業訓練、パソコン講習など] ・アウトリーチ型の潜在労働力に対する啓発活動 [出張!ハローワーク、健診事業など]

(2) 啓発活動及び相談実績[令和5年度]

区分	啓発活動数(回)	相談者数(人)	就職決定者数(人)
鳥取ハローワーク	49	46	3
倉吉ハローワーク	43	23	9
米子ハローワーク	6	33	13
合計	98	102	25

(3) 主な相談事例

相談者	相談事例・支援結果
54歳(女性) 両親の介護のため、10年間離職	・支援員の面談により自己分析を実施し、企業説明会や見学会へも参加して就職への不安を軽減させる。 → 支援の結果、経験の接客業に応募して採用となった。
34歳(男性) 高校卒業後未就職で、10数年引きこもり	・青少年ピアサポートを通じての相談事案で、アセスメント等により自己理解の部分を丁寧に支援する。 → アルバイト経験のあった飲食店に応募して採用となった。
30代(女性) 約10年間勤務した企業を会社都合(事業縮小)で退職	・今後の職種について悩んでいたためキャリアデザインラボに繋ぎ、適職診断でモノづくりに適性があると診断された。 → 診断結果が本人の意向とも強く合致したため、製造系の職種に応募して採用となった。
40代(女性) 子育てのため、離職	・約5年間保育士として働いたが、その後は子育てで仕事から離れる。子どもの進学を機に仕事復帰を希望のため来所。 ・長年専業主婦をしていたことで働く勇気が出ないとのことで、キャリアデザインラボでカウンセリングを実施し、就業意欲が生まれた。 → 保育系の職種に応募して採用となった。